



**Press Release**

**HBC 北海道放送株式会社**

※「ガッチャンコ」とは…

「くっつける」「ひとつになる」という意味で使われる言葉。HBCが、人と人、地域と地域を「つなぐ」存在でありたいという願いがこめられています。

2021年1月8日

## HBC創立70周年記念

### 倉本聰ドラマコレクション

日曜劇場「幻の町」「ばんえい」「りんりんと」

**DVD 3月発売決定！**

HBC北海道放送は創立70周年の記念事業として、脚本家・倉本聰氏が脚本を手がけた自社制作ドラマをおさめたDVD「倉本聰ドラマコレクション 日曜劇場『幻の町』『ばんえい』『りんりんと』」を発売する。収録されるのは、HBCが1970年代にJNN系列の日曜劇場枠で制作したドラマ「幻の町」「ばんえい」「りんりんと」の3作品。これに加えて、特典映像として倉本氏と映画監督の是枝裕和氏の対談をセットで販売する。



発売元：HBC 北海道放送

販売元：ポニーキャニオン／HBC 北海道放送

品番：ポニーキャニオン版：PDBE.56361

HBC 北海道放送版：HBDX10324

価格：税込6,600円

※HBCの通販サイト「HBC北海道発信ショップ」ほか、全国の書店、DVD取扱店などで予約受付中。

HBCは1957年に生放送でドラマ制作を始め、1958年から1993年まで、日曜夜9時の一話完結ホームドラマ「東芝日曜劇場」の作品を約150本制作した。「北の国から」「前略おふくろ様」「やすらぎの郷」など、日本のドラマ史に残る数々の名作を生み出した脚本家の倉本氏は、1972年に「風船のあがる時」で初めてHBC制作の日曜劇場の脚本を執筆した。その後、1974年に札幌を訪れ、77年に富良野に移住。北海道に根差しつつ、HBC制作のドラマに数多くの脚本を提供し、上記3作のほか、「うちのホンカンシリーズ」など合計19作のドラマ脚本を手掛けた。その縁もあって、今回、HBCの創立70周年を機にドラマのDVD化が決定した。

HBCは今年で創立70周年を迎え、1月23日(土)午後2時から、倉本氏と是枝氏の対談番組「HBC 創立70周年記念 倉本聰×是枝裕和特別対談 “あのとき” から～北の大地とドラマと…」を放送する。DVDには二人の対談部分が収録される。是枝氏は「誰も知らない」「そして父になる」などの作品でメガホンを取り、2018年に「万引き家族」でカンヌ国際映画祭の最高賞となるパルム・ドールを受賞するなど、名実ともに世界的映画監督として評されている。是枝氏は幼いころから日曜劇場の放送を楽しみにしていて、倉本氏脚本の日曜劇場にも影響を受けたと語っている。今回は、そんな二人が直接対談をする貴重な機会となる。

DVDは1月8日(金)から、HBCの通販サイト「HBC 北海道発信ショップ」のほか、全国の書店・DVD取扱店などで予約を受け付け、3月24日(水)に発売する。HBC 北海道発信ショップでDVDを予約した先着100名には、特典として、倉本氏とともに日曜劇場を制作したHBCの演出家、故・守分寿男氏の著書「北は、ふぶき」が付帯される。ドラマの内容は下記の通り。

#### ※ドラマのあらすじ

- ◆「幻の町」(1976年放送) \* 第31回 芸術祭優秀賞受賞番組  
～樺太(現サハリン)から引揚げたある老夫婦(田中絹代、笠智衆)が、小樽に住むゆか(桃井かおり)のもとを訪れる。二人は戦前に住んでいた樺太の町の地図を作るために、当時の様子を知る人々を探して各地を巡っているのだった。ところが、ゆかの家を出た後、二人はその大事な地図を無くしてしまう…
- ◆「ばんえい」(1973年放送) \* 第28回 芸術祭優秀賞受賞番組  
～地方の公務員として不器用に生きてきた公介(小林桂樹)は、貞淑な妻のしお(八千草薫)と高校生の洋一(中村まなぶ・現梅雀)と3人暮らし。ある日、公介は、戦友の小松(大滝秀治)が妻(中村たつ)から「うちの亭主は、ばんえい馬…」と揶揄されていることを、しおから聞き憤慨する。翌朝、公介は役所を休み、しおを「ばんえい競馬」に連れて行くと言い出す…
- ◆「りんりんと」(1974年放送)  
～東京の晴海ふ頭から、出発ぎりぎりに北海道行きのフェリーに乗り込んだ信(渡瀬恒彦)。年老いた母親のさわ(田中絹代)を生まれ故郷の北海道に連れて行くのだ。久しぶりの帰省をまるで旅行するかのようによびさわだが、二人が北海道に向かう本当の目的は、さわを老人ホームに入居させるためだった。

#### 【お問い合わせ先】

HBC 北海道放送総合メディア戦略局ライツ・コンテンツ部  
(電話) 011 - 232 - 5858